

二〇二四年度入学試験問題

国語 (六〇分)

注意事項

- 一、試験開始の合図があるまで、問題冊子は開かないでください。
- 二、この問題冊子は28ページあります。試験中、ページの脱落等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
解答用紙(マークシート)の汚れなどに気づいた場合も、同様に知らせてください。
- 三、解答用紙(マークシート)は折り曲げたり、汚したりしないでください。
- 四、解答は、すべて解答用紙(マークシート)に記入し、解答用紙(マークシート)の枠外には、なにも書かないでください。
- 五、解答番号は、1～40まであります。
解答用紙(マークシート)には、問題番号が1～50、選択肢が①～⑩まで印刷されていますが、解答にあたっては、各設問に指示された選択肢の数の中から選んで解答してください。
- 六、マークは必ずHBの黒鉛筆を使用し、訂正する場合は、完全に消してからマークしてください。
- 七、監督者の指示に従って、解答用紙(マークシート)に解答する科目・受験番号をマークするとともに、受験番号および氏名を記入してください。
- 八、解答する科目、受験番号、解答が正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。
- 九、試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

問題一

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

その夜

石垣りん

女ひとり

働いて四十に近い声をきけば
私を横に寝かせて起こさない
重い病気が恋人のようだ。

どんなにうめこうと

心を痛めるしたしい人もここにはいない

三等病室のすみのベッドで

貧しければ親族にも甘えかねた

さみしい心が解けてゆく、

あしたは背骨を手術される

そのとき私はやさしく、病気に向かつていう

死んでもいいのよ

ねむれない夜の苦しみも

このさき生きてゆくそれにくらべたら

どうして大きいと言えよう

ああ疲れた

ほんとうに疲れた

シートが

黙って差し出す白い手の中で

いたい、いたい、とたわむれている

にぎやかな夜は

まるで私ひとりの祝祭日だ。

——詩集『私の前にある鍋とお金と燃える火と』

「その夜」を読んだとき、ああお見舞いに行きたかったと、ツウセツにおもいました。その頃、石垣りんとの間際はなかったので、病気をすることも知らなかったし、これを書いたときはすでに回復していたわけなのですが……。

貧しければ親族にも甘えかねた

さみしい心が解けてゆく

ここがぐつときて、胸が痛くなりました。

A

育ってしまった、うどの大木の私にも、まちがいなく入ってきた何かで、それまでもたくさん読んできたはずなのに、これが石垣りんの詩との、最初の出逢いでした。

詩との出逢いもふしぎなもので、作者はよく知っているのに、その詩とはさっぱり出逢えないということもあり、皆が名作というのに、なんにも感じなかったり、やはり詩との出逢いも御縁というしかなく、

B

の名著を全部よめないように、一億の日本人全部と会話することはできないように、特定の縁によって愛読書になったり友人になったりするようなものです。

自伝的文章によれば、石垣りんは一九三四（昭和九）年に、丸の内の日本興業銀行に給仕として入社、着物をきて袴をはいて通ったということ、年は十五歳でした。その頃、私は小学生でしたが、そういえば女の先生は皆、着物に袴で

C

歩いていました。

つとめはじめの頃は家計のためにではなく、働いたお金で誰にも文句をつけられず、本を買ったり詩や文章を書きたかったからなのですが、戦争をへて、時の流れは、石垣りんを一家の経済の大黒柱にしてしまい、引くに引けぬ立場で定年になるまで同じ銀行で働き通しました。

実に素直に、ふだん言うように投げ出されていて、かえってハッとさせられます。一種の見栄みえのせいでしょうか、詩の中に「D」というような言葉が出てくることはめったになく、破格とっていいほど大胆な使いかたです。

女ひとり働いて四十に近い声をきけば、その疲労指数は男性のそれよりずっと大きいのではないのでしょうか。体力の差というより、社会的気圧のせい。女が独身で働きとおすという何でもない当りまえのことに対して、のしかかってくるさまざまな圧力やいやがらせは、インシツbで、きわめて日本的です。そんな中で、性格のひずみやゆがみをきたさないように、明るく生きていこうとすれば、それはそれで大変なエネルギーを要し、疲労の質もただの仕事の疲れだけではないだろうと、そんなことも読みとらずにはいられません。

石垣りんにとって詩は、誰のためのものでもなく、自分自身のバランス、舵かじをとるための行為で、その必死の作業が読者にも「板子一枚、下は地獄」の生の深淵しんえんをかいまみせてくれるのです。そこはかたなくタダヨウユーモアや、ほのあかるさにも特徴があります。が、手術前夜の緊張と、おそってくる痛みにさえ、横に寝かせて起こさない病気が私の恋人みたい、病気になつてはじめて休めた私一人の祝祭日、といえるほど自分dを突っぱなしてみられるところから、生まれてきています。小学生のころからこつこつ始めた詩作が、ほぼ四十代に至って、いっぺんに開花したさまは、ほれほれするくらいの見事さでした。

くらし

石垣りん

食わずには生きてゆけない。

メシを

野菜を

肉を

空気を

光を

水を

親を

きようだいを

師を

金もころも

食わずには生きてこれなかった。

ふくれた腹をかかえ

口をぬぐえば

台所に散らばっている

にんじんのしっぽ

鳥の骨

父のはらわた

四十の日暮れ

私の目にはじめてあふれる獣の涙。

——詩集『表札など』

さまざまのお経には何か書いてあるのかよくわかりませんが、お経の数も目がまわるほどたくさんあるらしいのですが、中身をぎりぎり凝縮すると「くらし」という詩に近づき、罪ふかき者どもよ、その罪を悟って生きよ、ということではないのかしら。それが石垣りんほど、うまく E 言えなかったので、かくもたくさんのお経で、手をかえ品をかえ、言っても言っても言いたらずではないのかしら。とおもつたらお釈迦さまは怒るのかしら。法事のお経の長々しさに閉口し、しびれきらしながら思ったことです。

一時間のお経より私には石垣りんの、この短い一篇いっぺんのほうがありがたいのでした。お経のたとえが出てしまったのも、仏教のもっとも深い部分と通いあうものがあるからだろうと思います。

おぞましい生の実態、見ないですまされたら見たくはないもの、ひたすら覆いかくそうとしてきたのが文明なら、それをはぎとり、二本足の獣、一番残酷な獣にすぎない醜悪さはつきり見据えようとするこの欲求は、何と名づけたらいいのか。碁石碁石をパチンと音たてて置くように、「にんじんのしっぽ」「鳥の骨」と布石がつづき「父のはらわた」に至ってギョツとして、受け手も進退きわまらず。

スネをかじっている時は **F**、何もわかりませんが、自分が今度はかじられる番になって、やっと昔のことを愕然がくぜんと思い出してしまふ、くさりの輪のようにつながってゆく生のかえしの哀れふかさが「四十の日暮れ」ということばで、 **G** 迫おそってきて、

私の目にはじめてあふれる獣の涙。

作者の涙は、読むものの涙へと、つながってしまい、すぐれた浄化作用カタルシクスをはたしています。

人生体験といえるほどのものをもっていない若者でも、少し敏感な人なら、じぶんの喜びがしば他人の悲しみの上に立っていることに気づかずにはいられないでしょう。合格の喜びが不合格者の悲しみの上に、得恋の喜びが誰かの失恋の痛手の上に立っていたりするに。

それを考えると身動きできずじけてしまいますが、それもまたみつともないことで、自分もまたある時は誰かに食われる存在であると思つて、せいっぱい生きるしかありません。

ふだんよく聞く「食うか食われるか」「何で食つてる」「食えない」という言いかたは、あまりあざとくて好きではありませんし、使いたくもないものです。慣用句になりすぎて内容のほうはヒサンfしてしまつているからでしょう。けれどこの詩で用いられている「食う」のバリエーションは激しい美しさを湛たたえていて脱帽です。たぶん、抜きさしならぬ使いかたをしているからで、このたしかな手ごたえは、作者の半生の苦闘をしのばせるに足るものです。

もし、ほんとうに教育の名に値するものがあるとしたら、それは自分で自分を教育できたときではないのかしら。教育とは誰かが手とり足とりやってくれるものと思つて、私たちはいたつて **H** ですが、もつと **I** なもの。自分の中に一人の一番きびしい教師を育てたとき、教育はなれり、という気がします。学校はそのための、ほんの少しの手引きをしてくれるところ。高等小学校卒の石垣りんは学歴に関してレットウカンgを抱きつづけたと何度も書いていて、あるいは自分で気づいてはいないかもしれませんが、自分で自分をきびしく教育することのできた稀まれな人にみえます。

言葉の名手になれたのも不思議はなく、それにしても、言葉を得る道もまた難いかなと思わずにはいられません。

「くらし」が生きものの持つあさましさをテーマにしながら、読み終えたあと一種の爽快さにひたされるのはなぜなのか。おそらくこの詩の中に浄化装置がしまれていて、読み手がここを通過するさい、浄きよめられて、思いもかけない方角へ送り出されるからだとおも

います。

浄化作用を与えてくれるか、くれないか、そこが芸術か否かの分れ目なのです。だから音楽でも美術でも演劇でも、私のきめ手はそれしかありません。

(茨木のり子『詩のこころを読む』による)

問一 傍線部 a・b・c・f・g と同じ漢字を含むものはどれか。次の 1～4 のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマ

クしなさい。解答番号は 。

a 「ツウセツ」

- 1 セツブンにお目通しただけですと幸いです。
- 2 パイプのセツゴウ部分を強化する。
- 3 セツジツな問題をかかえる。
- 4 光のクツセツについて研究する。

b 「インシツ」

- 1 予算をシッコウする。
- 2 シツゲンで野鳥観察をする。
- 3 この小説のテーマはシツトの苦しみである。
- 4 彼は野球のソシツがある。

c 「タダヨウ」

- 1 村のはずれで古いボヒヨウを見つけた。
- 2 海岸にヒヨウチャクしたごみをひろう。
- 3 新役員はトウヒヨウによって選出された。
- 4 本のヒヒヨウを書く。

f「ヒサン」

- 1 詩歌より、サンブンの方が好きです。
- 2 皆のサンドウを得られるよう努力する。
- 3 世界イサンについて学んだ。
- 4 ミジめな負け方は二度としたくない。

g「レットウカン」

- 1 事件の問題点をレットキョする。
- 2 気圧の変化でペットボトルがハレットした。
- 3 ヒレットな手段を用いる。
- 4 その選手は最後にモウレットな追い上げを見せた。

問二

空欄 A

・ C

・ E

・ G

にあてはまる語句の組み合わせはどれか。次の1～4のうちから最も適

- 当なもの一つ選びマークしなさい。解答番号は 6。
- | | | | | | | | | |
|---|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|
| 1 | A | おおらかに | C | とことごと | E | キツパリと | G | ひたひたと |
| 2 | A | すすくと | C | さくさくと | E | スラスラと | G | そろそろと |
| 3 | A | のほほんと | C | しずしずと | E | ズバリと | G | そくそくと |
| 4 | A | すすくと | C | 堂々と | E | さらりと | G | ひしひしと |

問三

空欄 B

・ F

にあてはまる四字熟語はどれか。次の1～8のうちから最も適当なもの一つずつ選びマークしな

- さい。解答番号は 7。
- | | | | | | | | |
|---|------|---|------|---|------|---|------|
| 1 | 是是非非 | 2 | 抱腹絶倒 | 3 | 文人墨客 | 4 | 古今東西 |
| 5 | 日進月歩 | 6 | 無為自然 | 7 | 無我夢中 | 8 | 百家争鳴 |

問四 空欄

D

に共通してあてはまる言葉はどれか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は

9。

- 1 いたい、いたい、とたわむれている
- 2 死んでもいいのよ
- 3 重い病気が恋人のようだ
- 4 ああ疲れた ほんとうに疲れた

問五

傍線部d「自分を突っぱなしてみられる」とあるが、どういうことか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は

10。

- 1 自分自身と距離を置き、対象化すること。
- 2 自分の置かれている現実を背を向けるということ。
- 3 自分の内面を深く見詰め、心の問題と向き合うこと。
- 4 自分を故意にちやかしてみせ、それを言語化すること。

問六

傍線部e「碁石をパチンと音たてて置くように」とあるが、この表現からうかがえることはなにか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は

11。

- 1 石垣りんの選ぶ言葉の一つ一つが、詩の中に無駄なくあてはまっていく過程の心地よさ。
- 2 石垣りんが、自由自在にゲームを展開するように、楽しみながら言葉を選んでいく様子。
- 3 石垣りんが、詩の結びに向けて的確な順番で言葉をあてはめていくさま。
- 4 石垣りんが選ぶ取る体言止めの羅列が、碁石を置くような硬質な響き。

問七 空欄

H

I

しなさい。解答番号は 12。

1 H 楽観的 I 厳格的

2 H 抽象的 I 具体的

3 H 観念的 I 現実的

4 H 受動的 I 能動的

問八

筆者は、石垣りと彼女の作品をどのように評価しているか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 13。

1 日本社会における独身女性の生きづらさを的確に表現し続けた石垣りんは、学校教育は受けられなかったにせよ独学で詩を学んだ素晴らしい詩人であり、その詩の世界は多様性を重んじる現代社会でも通用する。

2 直視しづらい生の本質を日常の言葉で表現することで自分自身の舵を取り、なおかつ読者にカタルシスを与えられる言葉の名手である石垣りんは、自分自身を厳しく教育し得た類い稀な人間でもある。

3 苦闘の人生を背景に、生きとし生けるものの罪深さをうたいあげた石垣りんの作品の多くは、仏教のもっとも深い部分と通いあうことから、詩の領域を超えたあたりがたみと浄化作用を読者に与えうる。

4 石垣りんの人生は、戦争や貧困や女性差別、そして病気との闘いの連続であったが、その苦勞を乗り越えてきた彼女の人間力が、こつこつと書きためた詩に反映され、いつしか浄化作用を有する作品へと発展した。

次ページ以降にも問題があります。

問題二 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

ネガティブ・ケイパビリティ(negative capability) 負の能力もしくは陰性能力)とは、「どうにも答えの出ない、どうにも対処しようのない事態に耐える能力」をさします。

^a A、「性急に証明や理由を求めずに、不確かさや不思議さ、懐疑の中にあることができる能力」を意味します。

九州大学医学部の精神科では、国内外のさまざまな精神医学の月刊誌を購入していました。私の机のある部屋は、その開架の本棚に近く、いつでも手にして読めたのです。

欧米の雑誌で、最も読まれていたのはおそらく『米国精神医学雑誌』でしょう。深緑色の表紙で一センチ弱の厚みを持ち、コウタクのある上質な紙に印刷されています。手に取りやすく、実に読みやすい雑誌です。

現在では、医学図書館に行っても、開架の医学雑誌はほんのひと握りになってしまい、ガランとしています。その代わり、検索用のパソコンが五、六十台並び、電子ジャーナルから閲覧したり、検索してプリントアウトする仕組みになっています。雑誌毎の手触りとか重み、色彩は失われ、無機質になってしまいました。至便さの陰で、人間臭い何か失われていった典型でしょう。

ともかくその雑誌には、生理学、生化学、薬理学など、精神医学のさまざまな分野の論文がひしめき合っています。いきおい精読するのは、目次を眺めて、関心をひく表題を持つ論文だけです。そんな論文は、一号に二つ三つある程度です。

精神科医になって五年が過ぎ、六年目にはいった頃でした。この時期は、精神科医として多少の自信をつける半面、自分の未熟さにまだ道遠しと思う、相反する気持ちに揺れ動く頃です。要するに、精神科医の仕事そのものと、その根底にある精神医学の限界に気づき始めた時期だったのです。

B 研修医の頃、うまく治ってくれたと思った患者さんが、何年か大学外の病院をローテーションして大学に戻ってみると、また再入院してたりします。しかも前よりも重症になっていくのです。かと思うと、大学の外に出る前に入院していた患者さんが、そのまま入院生活を続けていたりするのです。いったい精神科医は医師としてどれほどのことができるのだろう。いやそもそも医学の大きな分野のひとつである精神医学そのものに、どれだけ力があるのだろう。そんな不安感にさいなまれ、自信をなくしかけるのがリンショウ五、六年目の精神科医と言っているいかもしれません。

そんな折、眼に飛び込んできたのが、「共感に向けて。不思議さの活用」という表題を持つ論文でした。何だこれは、と思いました。

〈共感 (empathy)〉は分かります。精神科医になりたての頃から、これは嫌というほど教えられ、実際に患者さんと接する中での重要性も痛感させられます。簡単に言えば、「相手を思いやる心」です。

とはいえ、これが漠然としていて、かつ奥が深く、タイトクするにも一筋縄ではいかないのです。

その「共感」と「不思議さ」を結びつけた論文ですから、驚きつつ立ったまま頁をめぐり、本文を読み始めました。著者など、どうせ知らない名前なので、眼中にありません。医学論文にはまず冒頭に要約があります。それはこうなっていました。

——人はどのようにして、他の人の内なる体験に接近し始められるだろうか。共感を持った探索をするには、探求者が結論を棚上げする創造的な能力を持つていなければならない。現象学や精神分析学の創始者たちは、問題を締めくくらない手順、つまり新しい可能性に対して心を開き続けるやり方を、容易にする方法を発展させた。加えて、フッサールの現象学的還元と、フロイトの自由連想という基本公式は、芸術的な観察の本質を明示したキーツの記述と、際立った類似性を有している。体験の核心に迫ろうとするキーツの探求は、想像を通じて共感に至る道を照らしてくれる。

フッサールとフロイトなら、共感について考える際、当然引用されるかもしれない。しかし詩人のキーツがどうしてここに出てくるのか。

不思議に思っ読進めていく先に、「ネガティブ・ケイパビリティ」の記述があったのです。

今では有名になった兄弟宛ての手紙の中で、キーツはシェイクスピアが「ネガティブ・ケイパビリティ」を有していたと書いています。「それは事実や理由をせつかに求めず、不確かさや不思議さ、懐疑の中にいられる能力」である。

能力と言え、通常は何かを成し遂げる能力を意味しています。しかしここでは、何かを処理して問題解決をする能力ではなく、そういうことをしない能力が推賞されているのです。しかもその能力を、かのシェイクスピアが持っていたというのですから、聞き捨てなりません。

さらに読んでいくと、キーツが詩人について語った部分も引用されていました。

詩人はあらゆる存在の中で、最も非詩的である。というのも詩人はアイデンティティを持たないからだ。詩人は常にアイデンティティを求めながらも至らず、代わりに何か他の物体を満たす。神の衝動の産物である太陽や月、海、男と女などは詩的であり、変えられない属性を持っている。ところが、詩人は何も持たない。アイデンティティがない。確かに、神のあらゆる創造物の中でも詩的でない。自己というものが無いのだ。

ここに至って、キーツの真意がようやく読み取れた気がしました。アイデンティティを持たない詩人は、それを必死に模索する中で、物事の本質に到達するのです。その宙吊り状態を支える力こそがネガティブ・ケイパビリティのようなのです。キーツはネガティブ・ケイパビリティの権化として、シェイクスピアを引き合いに出しています。しかし本当は、詩人こそネガティブ・ケイパビリティを身につけるべきだと説いているのです。

不確かさの中で事態や情況を持ちこたえ、不思議さや疑いの中にある能力——。しかもこれが、対象の本質に深く迫る方法であり、相手が人間なら、相手を本当に思いやる共感に至る手立てだと、論文の著者は結論していました。

著者の所属は、ハーヴァード大学医学部精神科となっていました。しかし著者がどういう人物かは知らず、三十年経った今でも分かりません。キーツのネガティブ・ケイパビリティを知ってからは、著者のことなどどうでもよくなったのです。

医学論文はそれまでも多数読んでいましたし、その後も現在まで数えきれないほど読んでいます。しかし、この論文ほど心揺さぶられた論考は、古稀に至った今日までありません。このとき衝撃をもって学んだネガティブ・ケイパビリティという言葉が、その後もずっと私を支え続けています。難局に直面するたび、この能力が頭をかすめました。この言葉を思い起こすたびに、逃げ出さずにその場に居続けられたのです。その意味では、私を救ってくれた命の恩人のような言葉です。

〈問題〉を性急にソテイせず、生半可な意味づけや知識でもって、未解決の問題にせつかちに帳尻を合わせず、宙ぶらりんの状態を持ちこたえるのがネガティブ・ケイパビリティだとしても、実践するのは容易ではありません。

C ヒトの脳には、後述するように、「分かる」とする生物としての方向性が備わっているからです。さまざまな社会的状況や自然現象、病氣や苦悩に、私たちがいろいろな意味づけをして「理解」し、「分かった」つもりになろうとするのも、そうした脳の傾向が下地になっています。

目の前に、わけの分からないもの、不可思議なもの、嫌なものが放置されていると、脳は落ちつかず、及び腰になります。そうした困惑状態を回避しようとして、脳は当面している事象に、とりあえず意味づけをし、何とか「分かる」とします。世の中でノウハウも

の、ハウツーものが歓迎されるのは、そのためです。

「分かる」ための窮極の形がマニュアル化です。マニュアルがあれば、その場に展開する事象は「分かった」ものとして片づけられ、対処法も定まります。ヒトの脳が悩まなくてもすむように、マニュアルは考案されていると言えます。(中略)

私たちは「能力」と言えば、才能や才覚、物事の処理能力を想像します。学校教育や職業教育が不断に追求し、目的としているのもこの能力です。問題が生じれば、的確かつジソク^kに対処する能力が養成されます。

ネガティブ・ケイパビリティは、その裏返し¹の能力です。論理を離れた、どのようにも決められない、宙ぶらりんの状態を回避せず、耐え抜く能力です。(中略)

私たちが、いつも念頭に置いて、必死で求めているのは、言うなればポジティブ・ケイパビリティ(positive capability)です。しかしこの能力では、えてして表層の「問題」のみをとらえて、深層にある本当の問題は浮上せず、取り逃してしまいます。いえ、その問題の解決法や処理法がないような状況に立ち至ると、逃げ出すしかありません。それどころか、そうした状況には、はじめから近づかないでしよう。

なるほど私たちにとって、わけの分からないことや、手の下しようがない状況は、不快です。早々に解答を捻^{ひね}り出すか、幕をおろしたくなります。

D 私たちの人生や社会は、どうにも変えられない、とりつくすべもない事柄に満ち満ちています。むしろそのほうが、分かりやすかったり処理しやすい事象よりも多いのではないのでしょうか。

だからこそ、ネガティブ・ケイパビリティが重要になってくるのです。私自身、この能力を知って以来、生きるすべも、精神科医という職業生活も、作家としての創作行為も、随分楽になりました。**E**、ふんばる力がついたのです。それほどこの能力は底力を持っています。

(はなまき ほうせい 帚木蓬生『ネガティブ・ケイパビリティ 答えの出ない事態に耐える力』による)

(注) 1 フッサール……エトムント・フッサール(一八五九～一九三八)。オーストリア出身のドイツの哲学者。現代哲学の主流の一つをなす現象学を確立した。

- 2 フロイト……ジークムント・フロイト(一八五六～一九三九)。オーストリアの心理学者、精神科医。精神分析学の創始者として知られる。
- 3 キーツ……ジョン・キーツ(一七九五～一八二二)。イギリスのロマン主義の詩人。
- 4 シェイクスピア……ウィリアム・シェイクスピア(一五六四～一六一六)。イギリスの劇作家、詩人。

問一

空欄

A

く

E

にあてはまる語句の組み合わせはどれか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 14。

- 1 A つまり B ところで C なぜなら D したがって E ようするに
- 2 A つまり B しかし C ゆえに D さらに E あるいは
- 3 A さらに B 例えば C あるいは D なぜなら E ただし
- 4 A あるいは B 例えば C なぜなら D しかし E いわば

問二

傍線部 a「この言葉に出会ったときの衝撃」とあるが、なぜ「衝撃」だったのか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 15。

- 1 精神科医になって五年が過ぎ、未熟さと自信との相反する気持ちを抱えていた自分に、初心を思い出させてくれた言葉だったから。
- 2 精神科医の仕事やその根底にある精神医学の限界を感じていた時に、人間へのより深い共感をもたらすこの言葉の概念を知り、大きな可能性を感じたから。
- 3 開架に取り残された医学雑誌でたまたま見かけた言葉であり、文学者が考案したものであるにもかかわらず、人間の共感力について新たな示唆を与えるものであったから。
- 4 海外の著名な文学者の手紙などの例から引いた、医学論文にふさわしくない言葉であるにもかかわらず、最終的に説得力のある結論を導くキーワードになっていたから。

問三 傍線部 b・c・d・i・k と同じ漢字を含むものはどれか。次の 1～4 のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマ

クしなさい。解答番号は 16) 20 。

b「コウタク」

- 1 国家的なカイトク事業が始まった。
- 2 久々に家族でシヨクタクを囲んだ。
- 3 夏休みはサワ歩きを楽しみ、自然を満喫した。
- 4 いくつかの作業を業者にイタクする。

c「リンシヨウ」

- 1 その歌人は、ビヨウシヨウで多くの作品を残した。
- 2 食べ物のシヨウミ期限を気にする。
- 3 その講演のインシヨウを聞かれた。
- 4 この土地のメイシヨウをぜひおとずれてみたい。

d「タイトク」

- 1 タイネット容器で、飲み物を温める。
- 2 祭りに出かけ、ヤタイで夕食を済ませる。
- 3 これは衣類がタイデンするのを防ぐためのものです。
- 4 この神社のゴシンタイは、山の上にあります。

i「ソテイ」

- 1 ソシキの一員として働く。
- 2 トラブルに対し、適切なソチをとる。
- 3 ソコウの良くない学生に注意する。
- 4 一家のソセンについて調査する。

k「ジンソク」

- 1 その代議士は事件に巻き込まれ、キョウジンに倒れた。
- 2 イチジンの風が彼の帽子を吹き飛ばした。
- 3 彼女のフンジンの活躍でチームは勝利をおさめた。
- 4 祖父はジンギを重んじる人間だった。

問四

傍線部 e・h・j・l の語句の意味はなにか。次の 1～4 のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

解答番号は ～ 。

e「せっかち」

- 1 まじめに対処しないこと
- 2 むりやりに物事を進めること
- 3 先を急いで落ち着かないこと
- 4 ささいなことまで気にすること

h「古稀」

- 1 数え年六〇歳
- 2 数え年六五歳
- 3 数え年七〇歳
- 4 数え年七五歳

j「及び腰」

- 1 自信がなくて中途半端な態度
- 2 やる気のまったくない態度
- 3 おびえて体がすくんでいる様子
- 4 わずらわしく思っている様子

1「えてして」

- 1 ある条件においては
- 2 結局は
- 3 時々
- 4 ともすると

問五

傍線部f「かのシェイクスピアが持っていたというのですから、聞き捨てなりません」とあるが、この表現からどのようなことがうかがえるか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は25。

- 1 シェイクスピアほどの才能のある人間でも、ネガティブ・ケイパビリティに頼っているという事実には驚いていることがうかがえる。
- 2 論文の中に、有名な文学者であるシェイクスピアの名前が思いがけず登場したことで、筆者の論文への関心がより高まったことがうかがえる。
- 3 高名な文学者であるシェイクスピアが、ネガティブ・ケイパビリティを持っていたという主張に、筆者が不信感を抱いていることがうかがえる。
- 4 シェイクスピアは、読者も当然知っている著名な文学者であるということを強調し、読者に共感を求めていることがうかがえる。

問六 傍線部g「キーツの真意」とあるが、それはなにか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号

は 26。

- 1 不確かさや不思議さ、疑いの中に留まる能力を身につけるべきであるのは、対象の本質に迫らなくてはならない詩人にほかならないという主張。
- 2 何も考えず、何の解決も生み出さないシェイクスピアの文学が、人びとに受け入れられているのだから、詩人もシェイクスピアの能力を模倣するべきであるという主張。
- 3 アイデンティティを持たないとされてきた詩人であるが、今こそネガティブ・ケイパビリティの権化であるシェイクスピアを乗り越え、アイデンティティを確立するべきだという主張。
- 4 ネガティブ・ケイパビリティの権化としてシェイクスピアを引き合いに出しながらも、実は詩人こそ、ネガティブ・ケイパビリティを持ち合わせた唯一無二の存在であるという主張。

問七 次は、「ネガティブ・ケイパビリティ」についての説明である。説明の内容として正しいものはどれか。次の1～4のうちから最も

適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 27。

- 1 ネガティブ・ケイパビリティという概念を編み出したのは、文学の教養が深い無名の医師である。
- 2 ネガティブ・ケイパビリティは、文学者に共通して見られる能力であり、誰もが有しているわけではない。
- 3 ネガティブ・ケイパビリティは、人間の脳の傾向に相反する能力であるため、実行に移すのは難しい。
- 4 ネガティブ・ケイパビリティは、世の中が認める問題処理能力とのバランスが求められる能力である。

次ページ以降にも問題があります。

問題三 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

第一章で、「おふくろの味」というのは、単純に「母の味」と直訳できる言葉ではなく、そこにはふるさとや故郷や家庭、各地の風土などの意味が含まれていると述べた。そこで本章では、「おふくろの味」という言葉が誕生した背景を、太平洋戦争後の復興期、高度経済成長期という時代に照らして考えてみることにしよう。だがその前に少しか寄り道をして、「おふくろの味」と類似した現象について触れておきたい。

私は日本各地に調査旅行や学会出張に出かけた先で、あるいは大学の近くの商店街を歩く時、いつも気に留めて探している店がある。それは例えば「信濃屋」「近江屋」「磐田屋」「出雲屋」「上総屋」「三河屋」「伊賀屋」といった類の名を持つ食堂である。旧国名にちなんでいる店名が多く、地域に根づいて長く営業している老舗が多いのが特徴である。立地している場所の地名を付けているのではなく、例えば東京に様々な地名の食堂が集まっている。私はそれを「地名食堂」と呼んでいる。地名を店名にしている例は意外に多く、また、全国各地に存在する。それはなぜなのだろうか。

例え話をしてみよう。あなたが知らない町や知らない国を一人で歩いている。言葉はあまり通じず、不安が募る。ところがそんな時、お腹が減ってきた。入る店を探す。さて、あなたはいったいどんな店を選んで入るだろうか。特にあてもなく探している時などは、自分にとって親しみのある地名や人名、ロゴや看板を目にした瞬間、少しほっとすることがあるのではないだろうか。せっかく外国に来たのだから、そこでしか食べられないものを食べようと最初は張り切っている、一人旅が長くなり、疲れてくると、日本のコンビニエンスストアや外食チェーン店の看板に不意に励まされることがある。

地名食堂の命名の背景にも旅人の心理をつかまえる、これと同じような原理があるように思える。店主自身がその地域出身者であるというアイデンティティの表明であるという場合もあるが、地名はそれに親しみのある人が(例えば出身地であるなど)、数ある店舗の中から店名に惹かれて立ち寄ること、彼らがその店の居心地の良さを判断するための一種の「記号」となるからである。

知らない土地で、SNSなどの情報を駆使して、瞬時に店舗情報や口コミを検索できる現代とは異なり、事前情報が全くない中では、店名に含まれている地名は、旅人にとってほとんど唯一の重要な手がかりに違いなかった。

例えば、長野という地域を意味する「信濃屋」や「美篋屋」といった地名食堂の暖簾をくぐる。そうすると、「野沢菜」や「鯉こく」というお品書きに並んで「信濃の国」という県歌が掲げられていることに気づく。そして、黙っていてもその場は自分の故郷のように思えてほっとする、という類の話を長野県出身者から聞いたことがある人もいるのではないだろうか。

「地名食堂」は一般的には「大衆食堂」という位置づけで親しまれている。大衆食堂についての作品が数多くあるライター遠藤哲夫は、一九六〇年代に大学進学のために新潟県の六日町(現・南魚沼市)から東京に出てきた一人である。新宿駅西口の「思い出横丁」を歩いていると、無性にゼンマイの煮物が食べたくなり、意を決して店に飛び込んだ。そこで故郷の山菜採りの思い出に浸りながらゼンマイの煮物を食べたのが、大衆食堂との出会いだったという。以来、遠藤にとつてそこは「望郷の場所」であり続けているのだという。

京王線笹塚駅前の商店街の一角に「常盤食堂」という古い食堂があった。地名が付いていたので、私は迷わず暖簾をくぐり、そこで昼ごはんを食べた。店の女将さんに話を聞いてみると、かつては朝から店を開けていたため、朝ごはんを食べて、弁当を詰めてもらい、夕方に空の弁当箱を返しがてら夕食を食べていく人もいたという。

つまり、その時代には朝昼晩の三食とも常盤食堂で食べている客がいたということになる。まるで実家であるかのように食堂を利用するのである。食堂の女将さんに、本にも書かれているから読んでみて、と勧められたのが遠藤のエピソードだった。そこには遠藤自身の実験が次のように書かれていて、なるほど、と腑に落ちた。

下宿暮らしで実家の仕送りは途絶えがち、印刷製本のアルバイトで食いつなぐ日々だったが、結局、実家が商売に失敗して大学を中退した。懐に余裕がなくても、大衆食堂は、安くて落ち着ける場所。家庭の延長でもあった。

全国の地名食堂の創業は古いものでは江戸時代からあり、近代、現代にも誕生している。古い食堂が立地している場所は大小の街道沿いが多いことからみて、往來の旅人のための飯屋としての営みから始まったものも少なくなかったと考えられる。近世、近代、現代のそれぞれの時代において、都市の拡大、経済成長、人びとの移動に伴う離郷や離村が多かれ少なかれ生じてきた。「地名食堂」は、このように絶えず社会に存在する故郷から離れて往來し、漂泊する人びとの拠りどころとして、故郷の「味」と、ひと時の心休まる時間を提供している場となってきたのである。

したがって、「おふくろの味」という言葉が誕生する以前においては、この地名食堂が故郷や風土を想起させる「おふくろの味」を提供する存在であったともいえる。本書ではこれを「おふくろの味」という言葉が誕生する前史として位置づけておきたい。

地名食堂をおふくろの味の歴史と位置づけたのには理由がある。都市化や産業化による人の移動や地域の変化が生じると、「故郷」的なものや場所が求められ、再発見されるといふ展開が、おふくろの味の誕生経緯と類似しているからである。「故郷」という物語―都

市空間の歴史学』を著した成田龍一(注2)によれば、都市空間の中で展開される故郷の記憶をめぐる物語は、一九世紀後半以降の日本で、絶えず紡ぎ出されてきた。

そして、故郷と類似する「郷土」という言葉も、工業化や人口移動が生じ、社会が大きく変動する中で、繰り返し想起され、議論されてきた。大正末期から始まる「民藝運動」、昭和初期(一九三〇年代)の郷土教育運動、第二次世界大戦前の郷土食研究、などもこれに含まれる。

この傾向に照らせば、「おふくろの味」が一九五〇年代に登場し、その後、外食、各種メディア、そして家庭において盛んに用いられるようになるのは、単なる個人の嗜好の問題ではないことがわかる。それは「故郷」を再発見し、強調していこうとする「社会傾向」、もう少し積極的にいえば、緩やかな「社会運動」の一つとして位置づけられるのではないかと私は考えている。

したがって、そうした運動を引き起こすような社会的背景に目を向けることは重要であろう。ただし、緩やかな「社会運動」とはいつでも、戦争との関わりで、多分にナショナリズムの高揚を意図した運動も含まれており、また、郷土食の見直しは、外米の入手が困難となった戦時期に「米」以外の食糧を再点検するためであったということも付け加えておかなければならない。

ふるさとの訛なつかし 停車場の人ごみの中に そを 聴きにゆく

岩手県出身の歌人、石川啄木(注3)の『一握の砂』に収められたこの一首が刻まれた碑が上野駅構内に置かれている。(中略)

常磐線のホームを出て中央正面口に向かう通路には、「仰ぎみれば 故郷の星 ここにあり きらめく星 ふれあいの星 わが心をうるおす」と刻まれた石板が埋め込まれ、その真上に星のモニュメントが輝いている。それらは、東北地方から東京への玄関口であった上野駅が、近代以降、東京の中でもとりわけ「ふるさと」や「故郷」への郷愁を誘う場所として親しまれてきたことを雄弁に物語っている。

その上野駅の広小路口を出て少し南に下ったところ、アメ横のすぐ近くの繁華街に「みちのく直送 酒と肴いろいろ」と記された看板を出す一軒の料理屋がある(中略)。一九五九(昭和三四)年に青森県出身の一人の女性が始めたその店は、今もなお健在である。彼女の名前は阿部なを(一九一一―一九九六年)といい、店の名前は「踏まれても踏まれても、どこまでも続くあぜ道」という意味の「畔」、東北の「北」を合わせて「北畔」と名付けられた。

店を開いてすぐ、酒の肴の味とその魅力的な女将ぶりが評判になった。同店は、冬、青森から長靴で上京してきた男性たちが立ち

寄って、革靴に履き替えて仕事に出掛けることのできた場所でもあり、阿部は青森の人びとにとっての「東京の母」の役割も果たしていた。芯の温かさと包容力に、涙をこぼした客は老若男女を問わないという。

東北地方から東京への玄関口であった上野駅近くに「みちのくの味」を供する場所があり、津軽弁の女将さんが迎えてくれることは、そこに立ち寄る人びとにとって、単に食欲を満たす以上の大きな意味があったことだろう。

群衆のなかに故郷を捨ててきしわれを夕陽のさす壁が待つ
ふるさとの訛りなくせし友といてモカ珈琲はかくまで苦し

青森県から早稲田大学への進学のために東京に出てきた寺山修司は、生涯、津軽弁を手離さなかつたと言われている。彼もまた、北畔に親しんだ一人であった。季節の移ろいや土の匂いがかき消されるような東京にいて、北畔では一皿一皿の料理の中にそれらを感じることができた。

(湯澤規子『おふくろの味』幻想 誰が郷愁の味をつくったのか)による

(注) 1 遠藤哲夫……著述家、プランナー、フリーライター(一九四三～二〇二二)。「大衆食の会」代表。著書に『大衆食堂の研究 東京ジャンクライ

フ』(三一書房)、『大衆めし 激動の戦後史』(いいモノ)『食ってりや幸せか?』(筑摩書房)など。

2 成田龍一……歴史学者(一九五一～)。日本女子大学名誉教授。専門は、日本近現代史・都市社会史。

3 石川啄木……明治時代の詩人、歌人(一八八六～一九一三)。与謝野鉄幹・晶子夫妻に師事し、口語体の三行書きによる生活派の歌をよんだ。代表作に小説『雲は天才である』、歌集『一握の砂』『悲しき玩具』、評論『時代閉塞の現状』など。

4 寺山修司……歌人、劇作家(一九三五～一九八三)。前衛演劇グループ「天井桟敷」主宰。歌集に『血と麦』、戯曲に『血は立ったまま眠っている』、映画監督作品に『田園に死す』などがある。

問一 傍線部 a「これと同じような原理」とあるが、具体的にはどのような原理か。次の 1～4のうちから最も適当なものを一つ選び

マークしなさい。解答番号は 。

- 1 お腹が減ってきた時、どこのお店に入ろうか探すということ。
- 2 見知ったものを目にした瞬間、少しほっとするということ。
- 3 言葉が通じない国を一人で歩いていた時に不安を感じるということ。
- 4 そこでしか食べられないものを食べようとするということ。

問二 傍線部 b「重要な手がかり」とあるが、どのようなことの手がかりか。次の 1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークし

なさい。解答番号は 。

- 1 その店の居心地の良さを判断する手がかり。
- 2 その店の主人がどこの出身かを判断する手がかり。
- 3 その店の食べものがおいしいかどうかを判断する手がかり。
- 4 その店の名物が自分の口に合うかどうかを判断する手がかり。

問三 傍線部 c・g・h・jの語句の意味はなにか。次の 1～4のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

解答番号は ～ 。

c「無性に」

- 1 なんとなく
- 2 報いやつぐないを求めず
- 3 はかなく
- 4 どうしても気持ちがおさえられず

g「腑に落ちた」

- 1 きっぱり判断を下した
- 2 合点がいかなかった
- 3 間違ったことを正しいと思いきんだ
- 4 合点がいった

h「想起」

- 1 思いおこすこと
- 2 まとめること
- 3 自分の意見を主張すること
- 4 しみじみとなつかしがること

j「展開」

- 1 くるりと方向を変えること
- 2 ばらばらに散らばること
- 3 次々にくりひろげること
- 4 目の前に広がること

問四 傍線部d「そこ」とあるが、具体的にはどこのことか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番

号は 34。

- 1 常盤食堂
- 2 思い出横丁
- 3 ゼンマイの煮物を出してくれた大衆食堂
- 4 新宿駅西口

問五 傍線部 e「その時代」とあるが、具体的にはいつ頃のことか。次の 1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。

解答番号は 35。

- 1 長野県出身者が、長野という地域を意味する地名食堂に入って故郷を思い出してほっとする時代。
- 2 私が常盤食堂を初めておとずれた当時の時代。
- 3 常盤食堂が朝から営業していた時代。
- 4 地名食堂を大衆食堂に位置づけて親しんでいた時代。

問六 傍線部 f「まるで実家であるかのように食堂を利用する」とあるが、なぜ「実家であるかのように」思ったのか。次の 1～4のうち

から最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 36。

- 1 大衆食堂は、客たちが朝昼晩の三食をとるような場所だったから。
- 2 大衆食堂は、いつでも気軽に行ける場所だったから。
- 3 大衆食堂は、生まれ故郷の料理を出してくれる場所だったから。
- 4 大衆食堂は、どんな人でも優しく迎え入れてくれる場所だったから。

問七 傍線部 i「故郷」的なものや場所」とあるが、わかりやすく言うと、どのようなものや場所か。次の 1～4のうちから最も適当な

ものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 37。

- 1 いかにも故郷らしい風景や、作られた名物料理のようなもの。
- 2 そこに住む人びとや味、風土など、故郷を思い出させるようなもの。
- 3 故郷の自然や、そこでの暮らしを再現するようなもの。
- 4 現実とはかけ離れた、理想化された故郷を思い出させるようなもの。

問八 傍線部 k・1 と同じ意味で使われているものはどれか。次の 1～4 のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は 38 ・ 39 。

k「照らせ(照らす)」

- 1 彼とは肝胆相照らす仲だ。
- 2 ライトで舞台を照らす。
- 3 あなたは私の闇を照らす輝く星だ。
- 4 学則に照らして処分する。

1「雄弁」

- 1 雄弁は銀、沈黙は金。
- 2 持ち前の雄弁さで、会場の聴衆の雰囲気を一気に変えてしまった。
- 3 薬指の指輪が、二人の関係を雄弁に語っている。
- 4 彼が雄弁をふるうとは、誰も考えなかった。

問九 傍線部 m「大きな意味」とあるが、どのような意味か。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 40 。

- 1 故郷の味を思い出させるという意味。
- 2 故郷の季節の移ろいや、そこに住む家族を思い出させるという意味。
- 3 雪深い故郷の風土を忘れないようにするという意味。
- 4 故郷の土の匂いをかき消し、東京での生活に慣れさせるという意味。